

本会記事

2025 年度春季大会報告

2025 年度春季大会は、5 月 28 日（水）～30 日（金）の 3 日間、京都大学宇治キャンパス宇治おうばくプラザにおいて行われました。今回の講演発表件数は、受賞記念講演 2 件、特別講演 2 件、招待講演 14 件、一般講演 97 件の合計 115 件と昨年の春秋大会と比べて少し少なかったものの、参加者は 3 日間で約 360 名と多くの方にご参加頂きました。

京都大学宇治キャンパスでの大会開催は今回が初めてです。2021 年度春秋大会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により開催は叶わず、オンライン開催となり、残念な思いをしましたが、ようやく京大宇治キャンパスでの開催が実現しました。

会場である宇治キャンパスは、JR 京都駅から約 20 分で黄檗駅に着き、駅から徒歩 5 分程の距離にあります。キャンパスにありがちな塀が無く、道路に面したところは木々や芝生に覆われ、地域の方や学校帰りの中高生がベンチや芝生を利用し、くつろいでいる姿が見受けられ、とても開放的な印象を受けました。

今回の講演大会では、7 つの講演特集と一般講演の発表がありました。講演特集「各種粉末の焼結技術および焼結機構の新たな展開」は 2 日間に分けて開催することとなりましたが、今大会最も聴講者数が多い特集となり、様々な焼結技術についての発表があり、活発な質疑応答が行われていました。また 1 日目午後は、自動車焼結部品分科会から金属焼結材料委員会に改組後、初めて講演特集「PM 材料におけるカーボンニュートラル」を企画頂きました。「カーボンニュートラル」は地球温暖化対策の一環として、社会全体が取り組むべき目標とされ、昨年開催した WORLD PM2024 においても HOT-TOPIC の SIS の 1 つとして“Carbon Neutrality (CN) in PM (ECO Processes, ECO Materials)”が取り上げられました。今回の特集では 1 件の一般発表と 3 件の招待講演で、合計 4 件と少なかったのですが、120 名近い数の聴講があり、関心の高さを伺うことができました。他の講演特集の発表の中でもカーボンニュートラルやりサイクルを含めた話もあり、CO₂ 削減に向けて様々な取り組みが求められる中、今後さらに注目を集めるトピックスになると思います。

前述の特集に続き、日本粉末冶金工業会の工業会賞受賞記念特別セッション、2025 年度定時社員総会と 2024 年度協会賞受賞式が行われました。受賞式では功労賞をはじめ、9 賞 65 名の表彰が行われ、尾崎会長より賞牌が授与されました。受賞者の詳細は当会 HP をご覧ください。

また、受賞式後はおうばくプラザ 2 階ハイブリッドスペースに場所を移して、約 140 名の参加を得て懇親会を行いました。島川祐一実行委員長の開会の辞に始まり、尾崎由紀子会長、協会賞受賞者を代表し、功労賞を受賞された目義雄様にご挨拶を頂きました。その後、乾杯のご発声を元会長高野幹夫様から頂き、歓談がスタートしました。今大会より、学生さんの自己紹介がなくなりましたが、終始会場の中では歓談の輪が広がり、大変盛会でした。学生さんの懇親会招待に代わる場については、学生会員を含む若手の方の交流の場を設けるよう、現在若手フォーラム企画委員会で検討を行っていますので、続報をお待ちください。

2025 年度秋季大会は、10 月 28 日（火）～30 日（木）の 3 日間、九州大学医学部百年講堂にて開催予定です。秋季大会は 8 件の講演特集ならびに一般講演で講演募集を行います。募集の詳細は、本号掲載の 2025 年度秋季大会講演募集をご確認ください。また、6 月下旬に大会 WEB サイトを開設し、講演募集を行います。多くの方のご発表、ご参加をお待ちしております。

（小川 千賀子）

